



10月23日(日)

三重県総合博物館 MieMuで開催

青少年赤十字創設100周年記念事業

# 三重県青少年赤十字まつり

～未来のあなたへ、やさしさを。～

開催日時 令和4年10月23日(日)

10:00～15:30

開催場所 三重県総合博物館MieMu

津市一身田上津部田3060

青少年赤十字は、赤十字の考え方を通じて、人を思いやり、主体的に行動する子どもを育てることを目的としています。日本における青少年赤十字は、1922(大正11)年に滋賀県の守山市立守山小学校から全国に広まり、令和4年度には青少年赤十字創設100周年を迎える予定です。

全国の青少年赤十字加盟校では、この創設100周年を契機に、「未来のあなたへ、やさしさを。」というスローガンを掲げて、子どもたちの絆・想い・活動を「つなぎ」、生きる力を育む活動を「つなげ」、新たな青少年赤十字の歴史を「つくる」活動を展開しています。

三重県では、青少年赤十字の高校生が運営の中心メンバーになって、「三重県青少年赤十字まつり」を開催します。このイベントを通じて、子どもたちが赤十字の人道について学ぶとともに、青少年赤十字の活動を県民の皆様にご理解いただき、幅広い赤十字活動のさらなる普及を図ってまいります。ぜひ、多くの方にお越しいただきますようよろしくお願いいたします。



高校生トレセンで企画を話し合いました



8月8日・17日と北部校・南部校に分かれて開催した高校生トレセン2日目では、参加した生徒たちが、「絶対に意見を否定しない」「とにかくやりたいことを書きまくる」というルールの元で「三重県青少年赤十字まつり」の企画を話し合いました。10月の開催に向けて着々と準備を進めています。

| 令和4年度<br>三重県青少年赤十字<br>指導者協議会<br>役員の紹介 |                        |                        |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |                     |      |
|---------------------------------------|------------------------|------------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|---------------------|------|
| 顧問                                    | 顧問                     | 顧問                     | 参与                  | 参与                  | 参与                  | 参与                  | 参与                  | 理事                  | 理事                  | 理事                  | 理事                  | 理事                  | 理事                  | 役職名  |
| 松田克己                                  | 東谷和久                   | 庄山昭子                   | 森昌彦                 | 山下隆久                | 宇仁田元                | 天野長志                | 山北正也                | 遠藤雅典                | 込谷丸山                | 村瀬藍                 | 相賀智                 | 伊達智博                | 小川晃範                | 東浦徹  |
| 三重県青少年赤十字<br>賛助奉仕団委員長                 | 三重県青少年赤十字<br>教育長代表     | 三重県青少年赤十字<br>松阪市立穂野中学校 | 志摩市立磯部小学校           | 文化財保護課長             | 県教委・社会教育<br>教員      | 県教委・小中学校            | 三重県立紀南高等学校          | 三重県立紀南高等学校          | 鈴鹿市立山室小学校           | 津市立雲濃中学校            | 津市立立野中学校            | 伊勢市立明倫小学校           | 松阪市立三雲中学校           | 青木利彦 |
| 三重県青少年赤十字<br>三重県支部事務局長                | 三重県青少年赤十字<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長    | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 日本赤十字社<br>三重県支部事務局長 | 名前   |
| 所属所名                                  | 所属所名                   | 所属所名                   | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名                | 所属所名 |



記念講演  
伊勢赤十字病院 看護師長  
安藤 恵理  
「国際赤十字活動と  
人道支援」  
～パングラデシュ避難民キャンプでの  
活動を通して～

青少年赤十字  
第31号

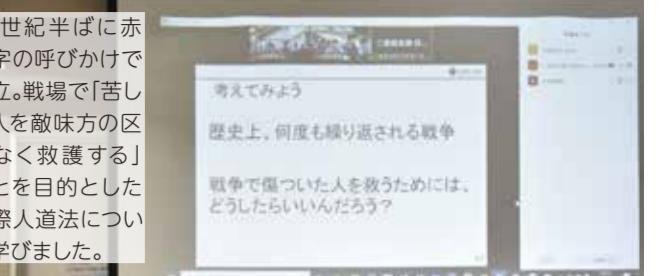
発行 日本赤十字社  
令和4年10月  
発行者 三重県支部



## JRC加盟校の生徒たちが 計画・運営にあたります

「青少年赤十字まつり」を計画・運営していくのはJRC加盟校の生徒たちです。8月に開催した「高等学校リーダーシップ・トレーニングセンター」では、来場者の皆さんに楽しみながら青少年赤十字活動を知つてもらうための企画を考える時間を設けて、活発に意見を交わし合いました。

話し合いの中では、「避難所ダンボール体験」や「bingo大会」、「鬼ごっこ」、「リアルウォーキーを探せ」など、さまざまなアイデアが登場。皆が積極的に自分の想いや考えを表明することでさらにアイデアが広がる場面も見られ、意見を交換しながら話し合うことの大切さを学ぶ機会になりました。



## 国際人道法と ウクライナ支援について 深く考える機会に

高等学校トレセン1日目には、国際人道法について学んだ後、ポーランド在住でウクライナの避難者支援を行っている坂本龍太郎さんと現地からWEBで繋ぎ、ロシアのウクライナ侵攻の現状を語っていました。メディアでは伝えきれない過酷な状況を知つて、改めて戦争の悲惨さに心を痛めることに。

多くの生徒たちが「一番印象に残った研修」としてウクライナ支援と国際人道法の研修を挙げました。

坂本さんとともにどのような支援が行えるのかを考える中で、一人ひとりが当事者意識を持って関心を抱き続けることの大切さに気づいたという声が多く聞かれました。貴重な研修を経験した生徒たちの感想の数々をご紹介します。

「私が講演を聴いて印象に残ったのは、“知識があつても人は救えない”という言葉です。助けるための物がなかったら、できることがわかつても何もできない。とても悲しいことだと思いました。坂本さんが募金することで私たちにできることと話していたので、少しでもできることがあつたらしていきたいと思いました」

「坂本さんが“知識だけじゃ人を救えない”と語っていました。私は知識の他に何が必要なのかと初めは疑問が解決しました。しかし、その後の話を聞いてその疑問が解決しました。坂本さんの言葉には一語一語思いや説得力があり、私の考えていることがどれほど浅い考えなのか理解しました」

「今後は今回のように世界的に危ない状況のときで、人々の助けとなるような人になっていきたいと思います。そのためには情報をたくさん自分で集めて考え、どうすべきかを分析したり、身近なこと、小さなことでも自分できることを続けていくようにしたいと思います。戦争の状況などの外側だけでなく、その中の人までよく見られるようにしていきたいです」

「この講演で最も学んだことは、今できることが全てではないということです。ウクライナの生々しい実態を知り、少しでも何かできることをしたいとより強く感じさせられたと同時に、今の私にできることはほとんどないという事実に無力感を感じました。でも、将来に助けになればいい、と聞いて、将来のために今できることを頑張つていこうと思えました」

当事者意識を持つ大切さ  
「ニュースになつてないこともたくさんあるんだと  
知ることができて、ポーランドからの生の声を聞くこ  
とが大切だとわかりました。私は募金くらいしか支援  
できることはないと思っていたけれど、言語を学ぶこ  
のもの日本からできることであり、知らないだけで、自  
分たちにできることは沢山あると気づきました」

「今はもできないかもしれないけど、将来何かでき  
るように準備を少しずつしていく、知識も身につけ  
かに関わって当事者になることで、人を引っ張ついて  
印象に残りました。私も将来海外に張り付いてい  
るようになりたい」という言葉を聞いて、何事  
にも全力で取り組んでいきたいと思いました」

関心を持つことの大切さ  
「ウクライナで起こっている問題について、どこか自  
分は距離のある話のように感じてしましました。  
しかし今日の講演を聴いて自分でもできることがあ  
るのではないかと思つたけれど、言語を学ぶこ  
のもの日本からできることであり、知らないだけで、自  
分たちにできることは沢山あると気づきました」

「現状に関心を持ち続けること、  
将来に支援できるように準備を  
できることをしたいとより強く  
印象に残りました。私も将来海外  
に張り付いていけるようになりたい」という言葉を覚え  
て、少しだけ他国の言葉を覚えて、何事  
にも全力で取り組んでいきたいと思いました」



加盟数

|        |     |
|--------|-----|
| 保育園    | 8   |
| 幼稚園    | 53  |
| こども園   | 11  |
| 小学校    | 236 |
| 中学校    | 87  |
| 義務教育学校 | 1   |
| 高等学校   | 8   |
| 特別支援学校 | 2   |
| 合計     | 406 |

編集後記  
毎年、4月に加盟登録を行つています。本年度は、昨年度より6校・園増加となりました。これは、昨年度青少年赤十字創設100周年事業としてボスター・コンクールなどを実施し、多くの学校・園へ案内を送つさせていただいたり、学校訪問をさせていただいたりしたことによがかったのではないかと思っていました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症対策や学校の働き方改革による行事の精査等で、これまで長年取り組んでいた学校・園から青少年赤十字への加盟を見送るという連絡を頂くことが多く、とても残念でした。青少年赤十字の掲げる実践目標「健康・安全・奉仕」は、国際理解・親善は、学校教育の底辺に根付いているものです。その意義を改めて見直していただき、来年度再度加盟していただけよう願つています。さて、例年開催してきましたトレセンは、本年度は、小学校は中止、中学校は2日間開催。高等学校は1日目全校トレセン。2日目北部・南部地域別トレセンを実施しました。どちらも泊まりで開催しました。参加された生徒さんは、「参加して自分自身を振り返ることができ、良きリーダーとして学校で取り組んでいきたい」などの感想が寄せられ、トレセンの成果が見られえてとてもうれしかったです。来年度こそ、泊を伴つての本格的トレセンが開催できますよう祈つています。

JRC態度目標  
気づき  
考え  
実行する

# 令和4年度 青少年赤十字 リーダーシップ・トレーニング・センター



JRC実践目標  
健康・安全  
奉仕  
国際理解・親善

## 中学生

中学校トレセン参加校  
南郊中・橋北中・芸濃中・橋南中・南が丘中・  
西橋内中・久居東中・豊里中

令和4年8月1日(月)・2日(火)



### 研修「RC・JRC」

最初の研修として赤十字の歴史や青少年赤十字活動について学び、意見を交わし合いました。

8月1日・2日の2日間にわたって開催された中学校トレセンには8校21名の生徒、25名の指導者が参加。赤十字や青少年赤十字への理解を深めるとともに、さまざまな研修を通じてリーダーとして必要な自主性・自発性を身につける機会となりました。



### 急救法

心肺蘇生法とAEDの活用について実習。実際に救助の場面に遭遇したときのための知識・技能を身につけました。

### VS ボランティア・サービス

レクリや食事、生活庶務の3つのVSに分かれて、2日間の活動を生徒たちが自分自身で考えるのもトレセンの特徴です。



研修「良いリーダーとは」  
グループごとのストレートワークでは、講義で学んだ「リーダー」と「フォロワー」の大切さを実践的な活動を通じて身につけました。

初めて会った相手ともゲームを通して気軽に話ができるよう!

アイスブレイキング  
「グー・チョキ・パー」を自由に身体で表現するゲームを実施。ユニークな表現が続出し、会場の雰囲気が一気に和みました。

トレセンは先生の指示を待つではなく、次の行動を「掲示板」で確認しながら自発的に行動します。

当初は他校の仲間と初めて顔を合わせる機会に緊張気味の様子を見ていた生徒たちも、アイスブレイキングで打ち解け、さまざまな研修に積極的に取り組んでいきました。

リーダーのあるべき姿を学ぶ研修を経て、1日目の最後に全体のリーダーを決める「村長選」で

は、何人の生徒たちが勇気を持って手を挙げる姿が。2日間で学んだ内容をグループごとに劇にして発表する「スタンツ」ではメンバー同士が劇の構成や見せ方など活発に意見を交わし合い、個性豊かな劇を披露。先生チームも加わって、大いに盛り上がりました。

研修「スタンツ」  
2日間で学んだ内容を5分程度の劇にして発表。時間をかけて内容を練り上げました。「個人個人の長所が混ざり合って良いチームが生まれると実感できた」という感想も。

真っ先に手を挙げた豊里中の西之瀬さんが村長に選出されました。

多くのフォロワーを持つリーダーを目指します  
豊里中学校 1年 山内 葉摘

私は今回、後期生徒会執行委員候補として何かの役に立てればと思い、トレセンに参加しました。

このトレセンで特に印象に残っていることは、「良いリーダーとは」という研修で、良いリーダーの条件やフォロワーの重要性を学んだことです。今まで私は「リーダーは完璧でなければいけない」という思いもありましたが、この研修を受けて、完璧なリーダーにはそう簡単にはならないけれど、多くのフォロワーがいるリーダーにはなれることを知り、私もフォロワーがたくさんいるリーダーになりたいと思うようになりました。

スタンツでも、みんなの長所を生かすことが大切ということを学ばせてもらいました。

ここで学んだことを生徒会活動に生かしていくます  
橋北中学校 2年 河内 胡々菜

とくに印象に残った研修はスタンツです。仲間たちと協力して、全てイチから決めて行動することができ、この2日間で自分たちは何を学んだのかを元に分かりやすい劇をすることができました。

1日目のときは、みんなに話しかげられて、人の名前をしっかり覚えていなかったのですが、2日目のスタンツのときは協力して考えて劇をしたりして、とても仲よくなれて楽しかったです。

私はここで学んだことを生かして、生徒会で活躍していくならいいなと思いました。トレセンに参加することができて、また新たなことを学ぶことができたことが嬉しかったです。

## 高校生

高等学校トレセン参加校

北部校…四日市四郷高校・白子高校・飯野高校・久居農林高校  
南部校…伊勢高校・木本高校・紀南高校・東紀州くろしお学園

令和4年8月5日(金) 全体トレセン  
8日(月) 北部校トレセン  
17日(水) 南部校トレセン

### 研修「良いリーダーとは」

グループの中でリーダーとそれを支えるフォロワーの関係性の大切さという視点に触れて、生徒たちは新たな気づきを得ることができました。

### アイスブレイキング

楽器や果物などお題に沿った内容を記入したカードを交換。自分の持っているカードの内容を他のメンバーに質問して当てるゲームを実施。初めて顔合わせた生徒同士の距離が縮まりました。

### アイスブレイキング

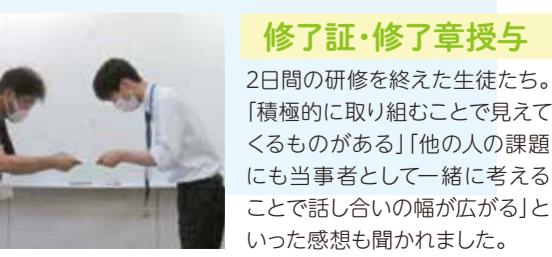
グループワークでは、それぞれのグループが与えられた課題の解決のために協力しました。

8月の計3日間、加盟校8校から54名の生徒、15名の指導者が参加して開催された高校生トレセン。コロナ禍の影響でここ数年開催が中止を余儀なくされてきましたが、今年度は日帰り方式で実施することができました。生徒たちの熱心な活動の様子をご紹介します。



### 研修「RC・JRC」

赤十字の活動を学ぶとともに、現在の部活動の内容や今後取り組んでいきたいことを話し合いました。



### コロナ禍だからこそ学べたこともあります

木本高校 3年 西 洸太郎

1年前に前県リーダーと交代したときは北部と南部別開催のチャレンジ研修会でした。今回、三重県の全てのJRC部と交流できたことがとても嬉しかったです。

午後からのワークショップでは、普段のリーダー役とは違い、リーダーをサポートする役に回りましたが、リーダーは周りに話し合えるサポートがいることで、より目標実現ができるものだと感じ、今まで自分が県リーダーとしてなんとかやってこれたのは同じリーダーの服部君や支部の方の支えがあってこそそのものなんだと感じました。

3年間、コロナ禍のままJRC部の活動が終わってしまうのは残念ですが、コロナ禍だからこそ学べたことも多くありました。2年間で学んだことを、「思ったら実行する」をモットーにこれからも活動していくべきだと思います!

### 2年間での成長を実感できました

白子高等学校 3年 服部 恭吾

今回のトレセンで自分自身の目標として、当事者意識を持つ、持つてもらうこととしてプレゼンの準備などを进行了。その中で感じたことは、考えているだけでは何もないということです。考えて、行動して初めて当事者意識を持てるのではないかと思いました。

研修を通じて、自分には何ができるか、何が必要かを考える事が大切だと思いました。また、それを他の人に言葉にして伝えることで助け合いになるのだと。進行の途中でたくさんのアクシデントがありました。以前の自分より臨機応変に対応できたので、成長できていると実感できました。2年間で学んだことを、「思ったら実行する」をモットーにこれからも活動していくべきだと思います!

### リーダー引き継ぎ

1年間リーダーを務めた白子高校・服部くん、木本高校・西くんの2人から、新リーダーとなる木本高校2年・中田さん、木本高校2年・榎本さんの2人へと引き継ぎが行われました。

